

2014年度第2回一橋大学政策フォーラム  
「公的統計のあり方とエビデンス・ベース政策形成」  
～新統計法施行から5年～



HITOTSUBASHI  
UNIVERSITY

主 催：一橋大学  
共 催：一橋大学経済研究所 世代間問題研究機構・社会科学統計情報研究センター  
日 時：2015年1月15日（木）13：30～16：00（13：00受付開始）  
会 場：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2 学術総合センター2階）

【プログラム】

現在、新統計法公布から7年、施行から5年が過ぎ、統計委員会の活動も2次の基本計画の設定を終えた段階にある。この機会に、この10年に亘って、公的統計のあり方や統計利用促進に関して、その制度設計や考え方を中心的に議論されてきた4名のパネリストをお迎えして、これまでの公的統計行政のあり方や、今後、さらに推進していくべき統計利用の方向性、そして、社会科学全般に関わるエビデンス・ベース政策形成での統計データの重要性などについて忌憚ない議論を展開していただく予定である。

---

|               |             |   |
|---------------|-------------|---|
| 13:00 - 13:30 | 受 付         |   |
| 13:30 - 13:35 | 開 会 挨拶      | 北村 行伸（一橋大学経済研究所教授）  |
| 13:35 - 14:35 | 報 告         |   |
|               | 司 会：        | 北村 行伸   |
|               | 報 告 者：      | 黒田 昌裕（慶應義塾大学名誉教授）   |
|               |             | 「"Piece-meal Evidence"の蓄積による経済学の構築にむけて<br>—— Normative Science から Positive Science へ」 |
|               |             | 吉川 洋（東京大学大学院経済学研究科教授）   |
|               |             | 「小泉政権下の統計制度改革」  |
|               |             | 樋口 美雄（慶應義塾大学商学部教授）  |
|               |             | 「新時代のエビデンス・ベース政策形成に求められる公的統計」   |
|               |             | 深尾 京司（一橋大学経済研究所教授・所長）   |
|               |             | 「生産性計測の視点からみた政府統計の課題」   |
| 14:35 - 14:55 | <休 憩>       |   |
| 14:55 - 15:55 | パネルディスカッション |   |
|               | 司 会：        | 北村 行伸   |
|               |             | 報告者全員による討論会及び参加者との質疑応答  |
| 15:55 - 16:00 | 閉 会 挨拶      | 北村 行伸   |

---

**お申し込み** 平成27年1月12日（月）までに下記サイト（申込フォーム）よりお申し込み下さい。  
<https://hrs.ad.hit-u.ac.jp/entries/add/922>

**お問い合わせ** 一橋大学経済研究所 世代間問題研究機構・社会科学統計情報研究センター  
E-mail：forum20150115@ier.hit-u.ac.jp